

KANTO

Vibration Roller

ハンドガイドローラ

H550KS/H600/H650

取扱説明書

関東鉄工 株式会社

はじめに

このたびは、当社の製品をお買上げ頂きましてありがとうございました。

この取扱説明書はハンドガイド振動ローラについての運転方法、点検、整備について説明しております。

本機が十分な性能を発揮し、また長い耐久性を維持していくためには、本機を良く理解し、正しい運転及び取扱いをして下さい。

ご使用の前に必ず本書を良くお読み頂き、いつも最良の状態でご使用くださるようお願い致します。

この取扱説明書をお読みになった後は、いつでも使用できるように製品の近くに保管場所を設けて、大切に保管して下さい。

尚、本機の仕様変更などにより、本書の内容およびイラストなどの一部が本機と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

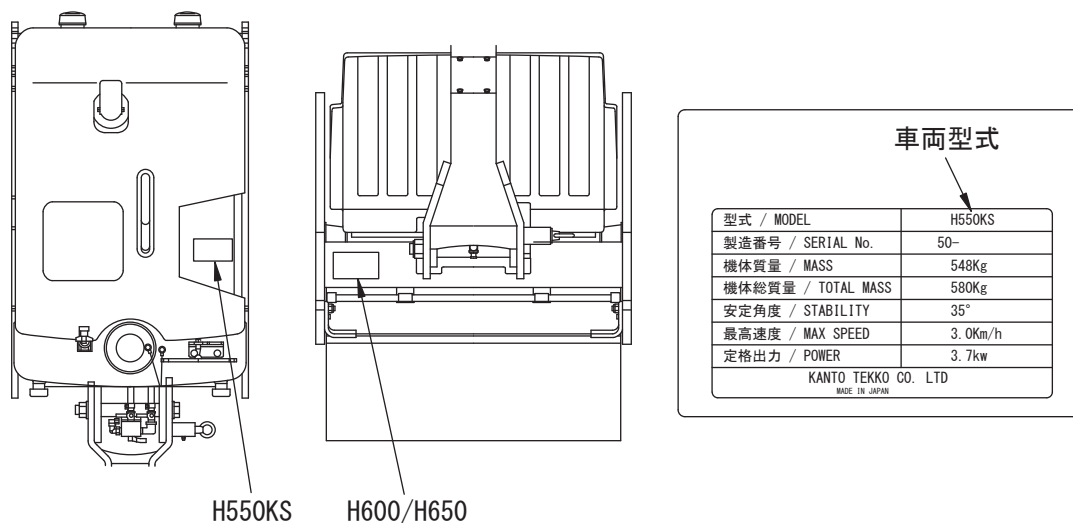
目 次

車両型式、車台番号表示位置	1
法定検査	2
1. 安全に使用していただくために	3
1.1 安全上の注意！	3
1.2 取扱説明書の注意事項！	3
1.3 機械の積み込み！	4
1.4 始動前の注意！	5
1.5 機械の始動！	6
1.6 作業時の注意！	7
1.7 駐車時の注意！	12
1.8 作業後の注意！	12
2. 製品説明	13
2.1 機構	13
3. 運転／操作要領	14
3.1 操作系	14
3.2 始動前点検	14
3.3 始動・走行	15
3.4 振動	17
3.5 ステアリング	17
3.6 パーキングブレーキ	18
3.7 セーフティハンドル	18
3.8 歯止め	19
3.9 散水	19
4. 保守点検	20
4.1 機械の掃除	20
4.2 ボルト／ナットの点検	20
4.3 Vベルトの点検	21
4.4 作動油フィルタの交換	21
4.5 作動油の交換	22
4.6 バッテリーの点検	23
4.7 グリース給脂	24
4.8 ラジエータ冷却水	25
4.9 スクレーパー	25
4.10 電磁クラッチ	26
4.11 定期点検一覧表	27
5. 仕様	28
5.1 外観寸法／諸元表	28

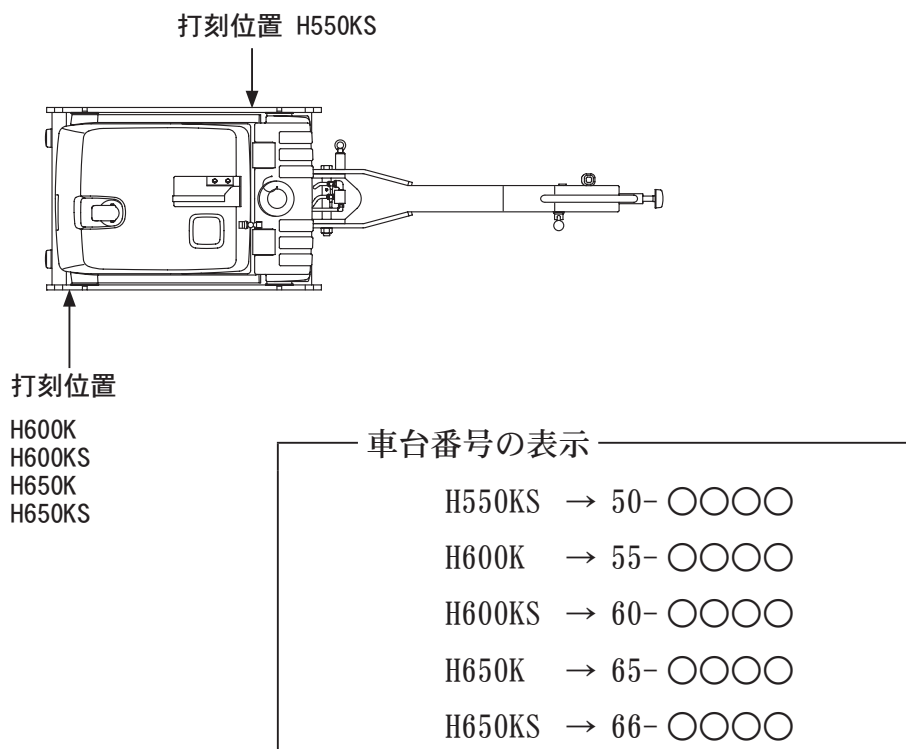
車両型式、車台番号表示位置

(1) 車両型式表示位置

銘板に表示してあります。



(2) 車台番号表示位置



※ 部品注文及び故障連絡

部品を注文される時または、機械が故障した時は、車両形式 / 車台番号をご連絡ください。

法定検査

車両系建設機械は、労働安全衛生規則により、次の検査、記録およびその保存が義務づけられています。

1. 作業開始前・・・労働安全衛生規則第 170 条
2. 1 ヶ月以内ごと（自主検査）・・・労働安全衛生規則第 168 条
3. 1 年以内ごと（特定自主検査）・・・労働安全衛生規則第 167 条

※〔特定自主検査について〕事業者は、その使用する労働者で労働省令で定める資格を有するものまたは労働大臣もしくは都道府県労働基準局長の登録を受けた検査業者に実施させなければなりません。

4. 自主検査の記録・・・労働安全衛生規則 169 条

労働安全衛生規則第 168 条および第 167 条の自主検査の結果を記録し、3 年間保存。

当該車両には、特定自主検査（法定年次検査）のステッカー（出荷標章）が貼ってあります。

出荷標章

6	労働安全衛生法第45条第2項による	7
5	特定自主検査を実施しましょう	8
4	第1回検査は 年 月です	9
3		10
2		11
1	社団法人 建設荷役車両安全技術協会 (厚生労働省指導)	12

出荷標章は、フォークリフト、不整地運搬車、車両系建設機械及び高所作業車の製造業者又は販売業者等が新車をユーザーに納入する際に、その機械の第1回特定自主検査実施期限を相手先に周知するためにはる標章です。

（参考）

検査業者用検査済標章



本標章は、検査業者がユーザー又は機械所有者の依頼によって特定自主検査を実施し、その安全性を確認したとき当該機械にはる標章です。

事業内用検査済標章

6	21	7
5	溶	8
4	特定自主検査	9
3	NO	10
2	検査者	11
1	社団法人 建設荷役車両安全技術協会 (厚生労働省指導)	12

本標章は、事業内の検査者が自社において使用する機械の特定自主検査を実施し、その安全性を確認したとき当該機械にはる標章です。

1. 安全に使用していただくために

1.1 安全上の注意！

- 1) 機械を本来の用途以外の目的に使用しないでください。
- 2) 訓練を受けていない人は機械を運転しないでください。
- 3) メーカーの承認を得ずに、機械を改造しないでください。
- 4) 当該する安全規則を守ってください。

1.2 取扱説明書の注意事項！

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ 危険 このマークのある個所は、死亡または、重傷を負う可能性があるものが極めて高いものを示します。

⚠ 警告 このマークのある個所は、死亡または、重傷を負う可能性があるものを示します。

⚠ 注意 このマークのある個所は、けがを負う恐れがあるものを示します。

⚠ 重要 このマークのある個所は、車両の損傷または寿命を短くする可能性のある場所を示します。

安全注意シンボル

このシンボルは「安全注意」を示します。

エンジンの注意銘板あるいはこの取扱説明書で、このシンボルを見た場合、安全に注意してください。

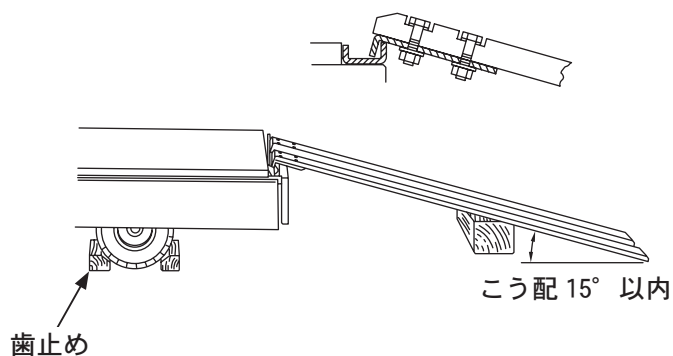
そして、記載内容に沿って予防処置を講じ、「安全運転・正しい管理」を行ってください。



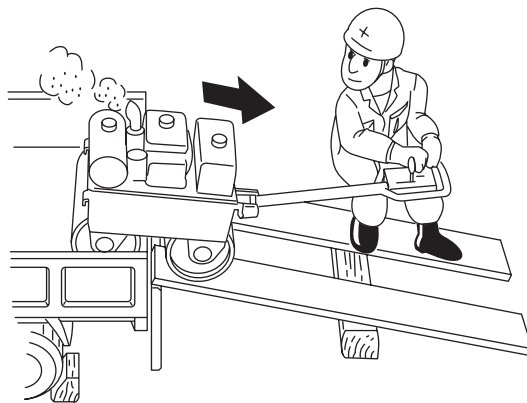
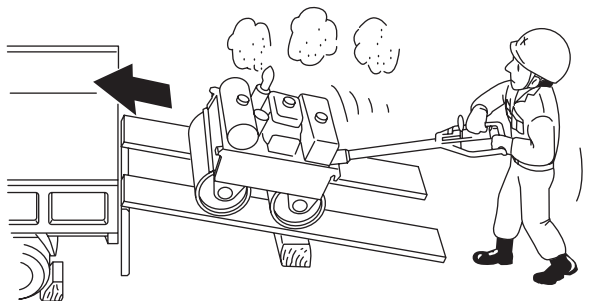
1. 安全に使用していただくために

1.3 機械の積み込み！

- 1) 頑丈で安定した傾斜板を使用してください。
傾斜板の勾配は、 15° 以内にしてください。
- 2) 積み込んだ機械が暴走、スリップ、転倒しないように固定してください。
- 3) 吊り上げている機械の下に入らないでください。
- 4) 吊り上げている機械を、絶対に揺らさないでください。



ハンドガイド式ローラの道板の使用例



ハンドガイド式ローラの積みおろし方法の例

1. 安全に使用していただくために

1.4 始動前の注意！

- 1) 機械を運転する時は、ヘルメット・安全靴を着用してください。
- 2) 作業によっては、保護メガネ、耳栓なども使用してください。
- 3) エンジンを始動する前に始動前点検を行ってください。

安全な服装・運転者の心得

- 作業をする際は、作業に合った服を着用のうえ、作業に適した安全防護具を用いてください。
- だぶだぶの服やネックレスなどは作業レバーや他の突起物に誤ってひっかかるおそれがあります。傷害につながりますので着用しないでください。
- 運転者が飲酒運転・過労・発熱など運転に注意力を欠いたとき、重大な事故を起すおそれがあります。常に良好な体調で運転してください。
- 運転中は安全を維持するために、ラジオあるいはミュージックヘッドホンを使用しないでください。



エンジン始動前の点検の実施

- エンジン運転の前は確実に運転前点検を行い、異常があれば直してから運転してください。
- エンジン付属の保護装置（回路）や安全カバーを取り付けて運転してください。



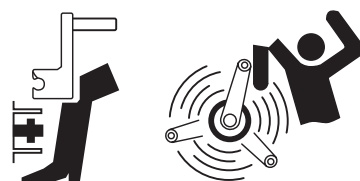
1. 安全に使用していただくために

1.5 機械の始動！

- 1) 機械の始動・操作は必ず機械の横で行ってください。
- 2) 屋内で運転する時は、排気ガスに注意し、換気を十分に行ってください。
- 3) 異常音や煙の発生に気が付いた場合には、機械を停止し原因を調べて故障個所を修理してください。

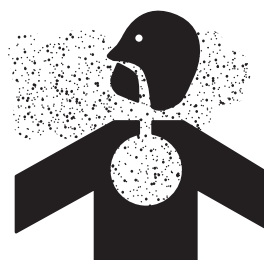
エンジン始動時の注意

- エンジンを始動する前に、周囲の安全を確認してください。
- 共同作業者がいる場合には、始動する前に合図をして、共同作業者の注意を喚起してください。
- 運転中は幼児や家畜などがエンジンに近づかないようにしてください。
- 始動ハンドルで始動する場合
 - 始動時はスタート軸のピンに始動ハンドルの爪を確実に掛けてください。
 - 始動ハンドルの爪が変形（摩耗や欠けなど）していたり、爪の掛り具合がおかしいと感じたときは、使用をやめて新品に交換してください。
 - エンジンが始動しても始動ハンドルの柄をしっかりと握って放さないでください。
- セルスタートで始動する場合
 - スタータ回路をショートさせてのエンジン始動はしないでください。危険なうえ、機械を損傷することがあります。



排気ガスに注意

- エンジンの排気ガスは、人体に有害な一酸化炭素などの成分を含んでいます。
- 換気の悪い場所ではエンジンを運転しないでください。
- 運転中は運転者はもちろん、まわりの人や家畜などにも排気ガスに十分注意してください。



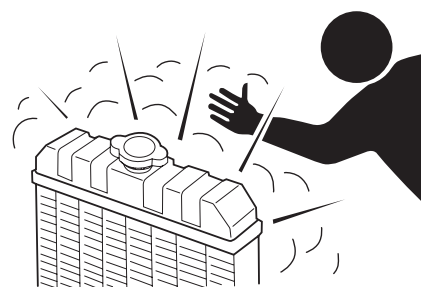
1. 安全に使用していただくために

1.6 作業時の注意！

- 1) 作業をする場合は、機械の前後に人や障害物がないか確認してください。
- 2) 傾斜面や坂道での作業は、特に慎重に行ってください。
- 3) 固い地面（コンクリート、凍結した地面）では振動を入れて作業をしないでください。

やけどの防止

- エンジン運転中および停止直後はマフラやマフラカバー、ラジエータ、配管、エンジン本体、冷却水およびエンジンオイルが熱くなっています。手や肌が触れるとやけどの危険があります。
- 運転後はエンジンおよびラジエータが十分に冷えてから（停止後 30 分以上）作業してください。
- エンジン停止後、ラジエータ注入口のキャップが素手で触れるほどまで冷えてから、キャップを取ります。
- キャップは、先ずゆっくりと第一ストップのところまでゆるめて、圧力を全部抜いたのちに、再び回して取外してください。
- 万一オーバーヒートした場合は、ラジエータやリザーブタンクから蒸気が吹き出すことがあり、手や肌が触れるとやけどの危険があります。
- エンジンは急停止しないで、負荷を切り最低 5 分以上アイドリング運転などの「冷機運転」を行い、徐々に冷却したのち停止してください。
- 冷却ファンやファンベルトが破損したままエンジンを運転すると冷却装置の破損やオーバーヒートを起こし、やけどの危険があります。
- 運転前に、必ず定期点検表にしたがって亀裂や異常の有無を点検し、亀裂やはがれなどの異常がある場合は新品に交換してください。



1. 安全に使用していただくために

燃料、潤滑油の取扱いを安全に

—火気厳禁—

- 燃料は非常に燃えやすく危険です。潤滑油も燃えやすく危険です。取扱いには注意してください。
- 燃料や潤滑油の補給中はエンジンを必ず停止してください。
- 喫煙しながら、あるいは、火気や火花の近くでの給油作業は絶対にしないでください。
- 燃料補給は風通しのよい屋外で行ってください。
- こぼれた燃料や潤滑油が高温部で着火する可能性のある場合は、エンジンが冷えてから補給してください。
- こぼれた燃料・潤滑油はいつもきれいに清掃してください。
- 火災を起こさないために、エンジンに堆積した汚れや、油性物、ゴミをいつもきれいに拭取っておいてください。
- 燃料など燃えやすい油脂類は、火気から離して貯蔵してください。



エンジンまわりはいつもきれいに

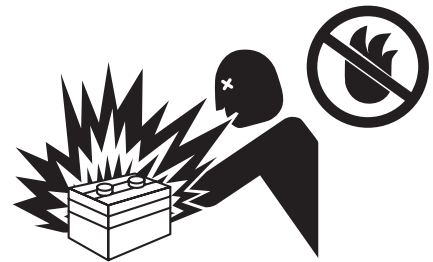
- エンジンまわりが汚れていると火災が発生することがあります。
- 火災が起きないように、エンジン周囲、ラジエータ、バッテリー、燃料タンク、排気配管、マフラ、配管配線周囲はいつもきれいにしておいてください。
- 清掃する場合は、必ずエンジンを停止してください。
- エンジンは「冷機運転」を行い、徐々に冷却してください。（最低5分以上のアイドリング運転）
- 冷機運転を行わないでエンジンを停止すると、急にエンジン周囲の温度が上がり危険です。



1. 安全に使用していただくために

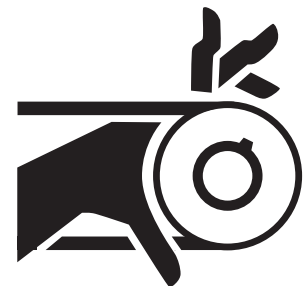
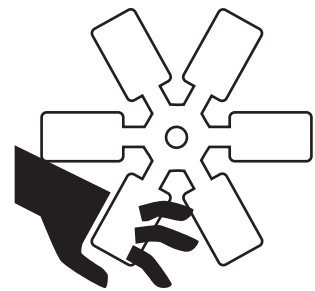
バッテリーの爆発防止

- バッテリーのガスは爆発するおそれがあります。
- バッテリーの近くでスパークさせたり、マッチを点火したり、裸火を近づけたりしないでください。
- 両極を金属片でショート（短絡）させてのバッテリー点検はしないでください。危険です。必ず電圧計または比重計を使ってください。
- 凍ったバッテリーは充電しないでください。爆発のおそれがあります。凍った場合、16℃以上に温めてください。
- バッテリーは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因になることがあります。すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリー）



動いている部分に触れないでください

- 運転中の冷却ファン、Vベルトに触れると危険です。
- 運転中の動力取り出し用Vベルトやプーリ、フライホイールも触れると危険です。
- 冷却ファン、Vベルトの点検、整備作業を行う場合は必ずエンジンを停止してください。
- 備え付けられた安全カバーを取外した状態でエンジンを運転しないでください。安全カバーは確実に取付けて運転してください。
- 作業機とセットした場合は、連結ベルト、カップリング、プーリなどの危険な部分は、必ず保護カバーを取付けて運転してください。



1. 安全に使用していただくために

火災の防止

- ホースおよび配管からの可燃性流体の漏れは、火災を起こすおそれがあります。
- 燃料、潤滑油などのホースや配管その他から油漏れはないか、必ず定期点検表にしたがって点検してください。
- ゆるんだり、紛失したクランプ、ねじれたホース、互いに擦れあっているホースや配管はないか点検してください。
- 燃料、潤滑油パイプなどのゴム製品は使わなくても老化するので、締付けバンドと共に、損傷がなくても2年ごとに、または、傷んだときには新品と交換してください。
- 高圧油の漏れは厚紙か板などを使って点検してください。直接、手や体を触れないようにしてください。
- 電気ケーブルおよび配線がショート（短絡）すると火災を起こすおそれがあります。
- ゆるんだり、ねじれたり、硬化した、あるいは、擦り減った電気ケーブルおよび配線がないか点検してください。
- すべての電気接続部はきれいに保ってください。
- エンジンが運転中の火災防止のため、建物及びその他の設備から1 m以上離してご使用ください。



1. 安全に使用していただくために

高圧油に注意

- 高圧噴油が皮膚に侵入すると危険です。
- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油の漏れは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接、手や体を触れないようにしてください。
もし、高圧噴油に触れた場合、直ちに医者への診断を受けてください。油が皮膚に侵入した場合、数時間以内に取除かないと壊疽（えそ）にかかるおそれがあります。



廃液などの処理

- エンジンから廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 廃液は不用意に捨てないでください。環境を破壊します。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への廃棄はしないでください。
油、燃料、冷却水（不凍液）、フィルタ、バッテリーその他の有害物を捨てる時は所定の規則に従ってください。



不凍液について

- 不凍液は毒性があるので、取扱いにはゴム手袋などの防護をしてください。
- 万一肌についた場合は、すみやかに水洗いしてください。
- 種類の異なる不凍液を混合して使用すると、化学反応し有毒物質が発生する危険があります。



1. 安全に使用していただくために

1.7 駐車時の注意！

- 1) 駐車する時は、平坦で安全な場所に駐車してください。
- 2) やむを得ず斜面に駐車する時は、斜面に沿って止め、車輪に歯止めをしてください。

1.8 作業後の注意！

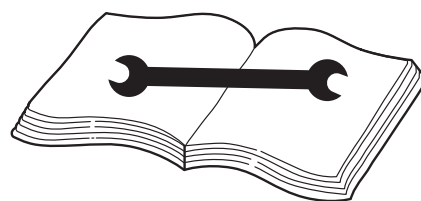
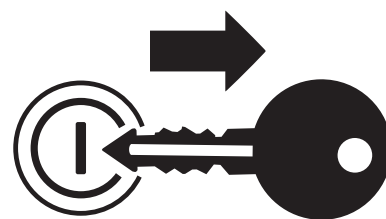
- 1) 作業終了後は、エンジンを停止して、必ずキーを抜き、保管してください。
- 2) 作業終了後、車体各部の点検を行ってください。

安全な点検・整備の実行

- 機械の点検や整備作業をする場合は、機械を平坦な広い場所に置き、車輪に歯止めをして行ってください。
- 機械の点検、清掃や整備作業をする場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 周辺をきれいに整理整頓してください。
- 整備作業をする前には、バッテリーを取外してください。

他の人が知らずに操作するのを防ぐために、「整備中」の札などをキースイッチなどの目に付くところに掲示してください。

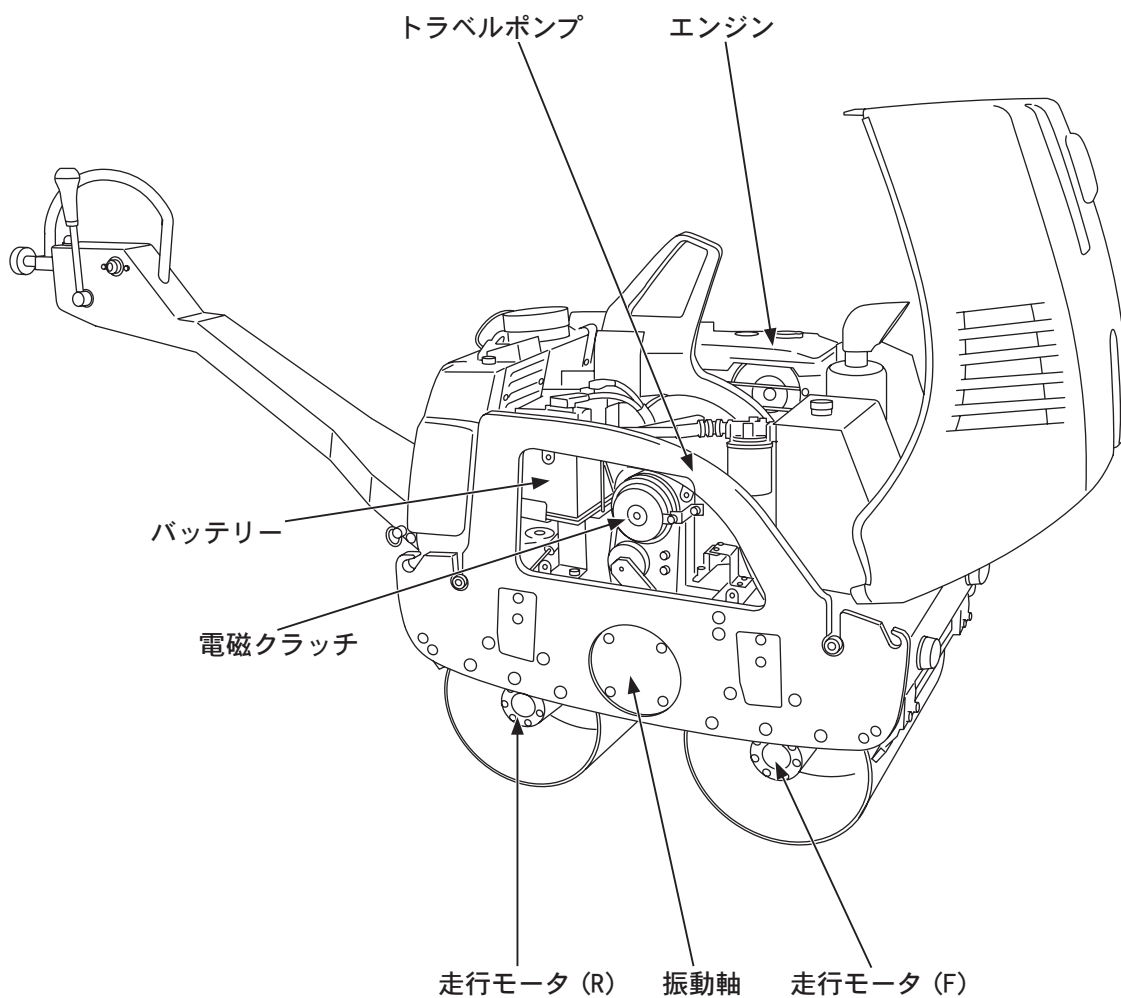
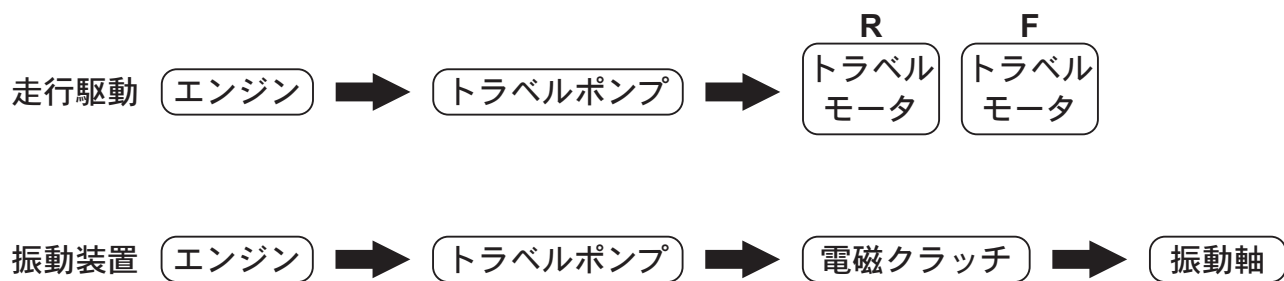
- 潤滑油、冷却水、マフラ、マフラカバーやエンジン本体が、安全な温度まで下がった状態で作業してください。
- 整備作業などで工具・治具を使用する場合は、必ず適切で調子のよい工具・治具をお使いください。整備作業する前には、使用する治具の使い方を熟知しておいてください。
- 燃料、潤滑油、冷却水などのホースや配管のゴム製品は、使わなくても老化するので、定期点検表にしたがって、締付けバンド・クランプと共に、損傷がなくても2年ごとに、または、傷んだときには新品と交換してください。



2. 製品説明

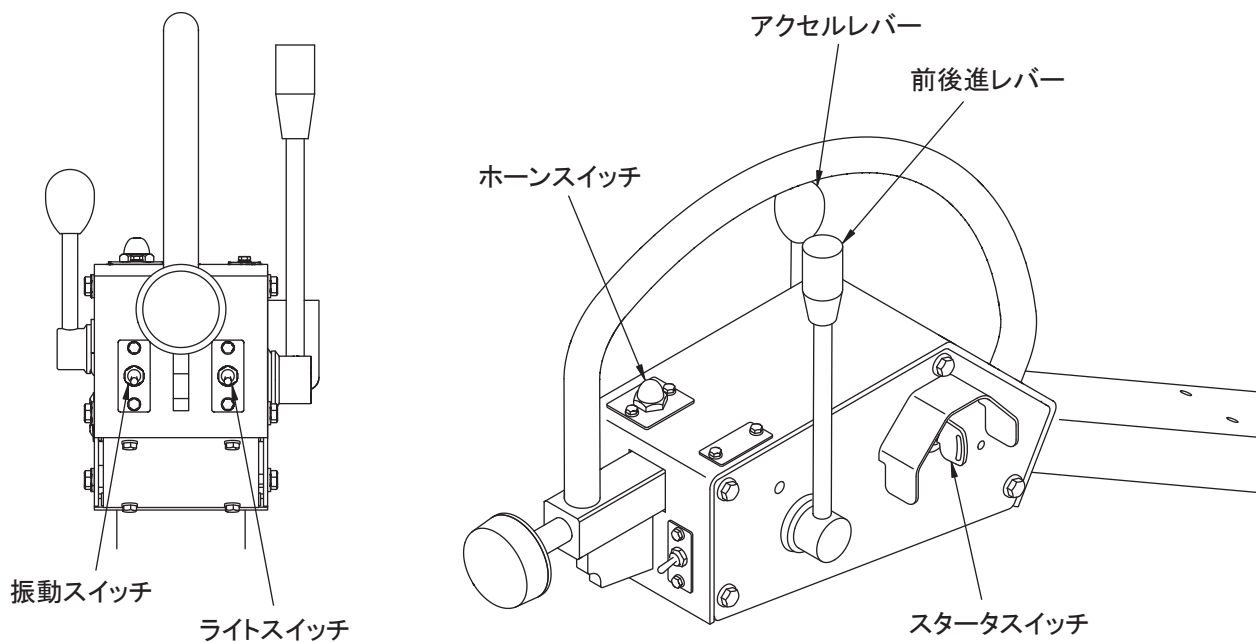
2.1 機構

両輪駆動車体振動ローラは走行駆動と振動装置が一体となったローラです。



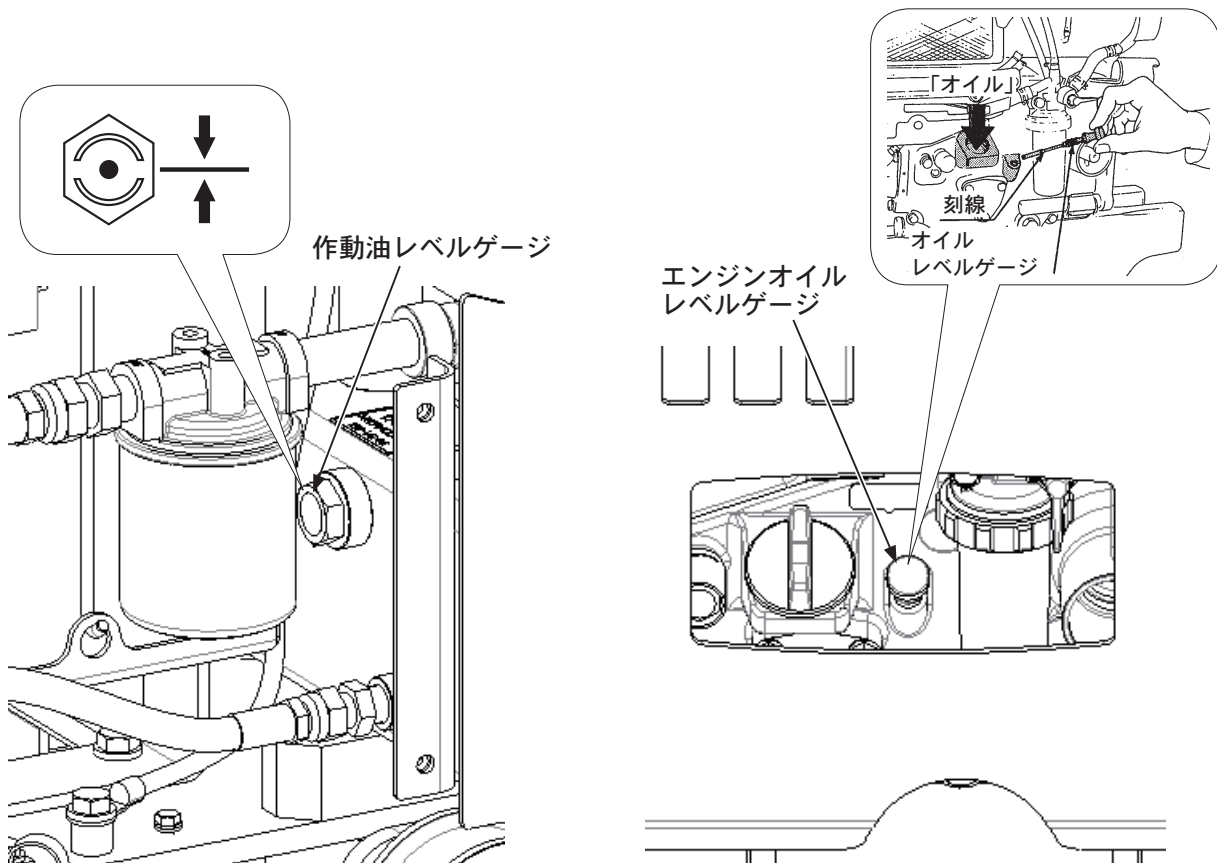
3. 運転／操作要領

3.1 操作系



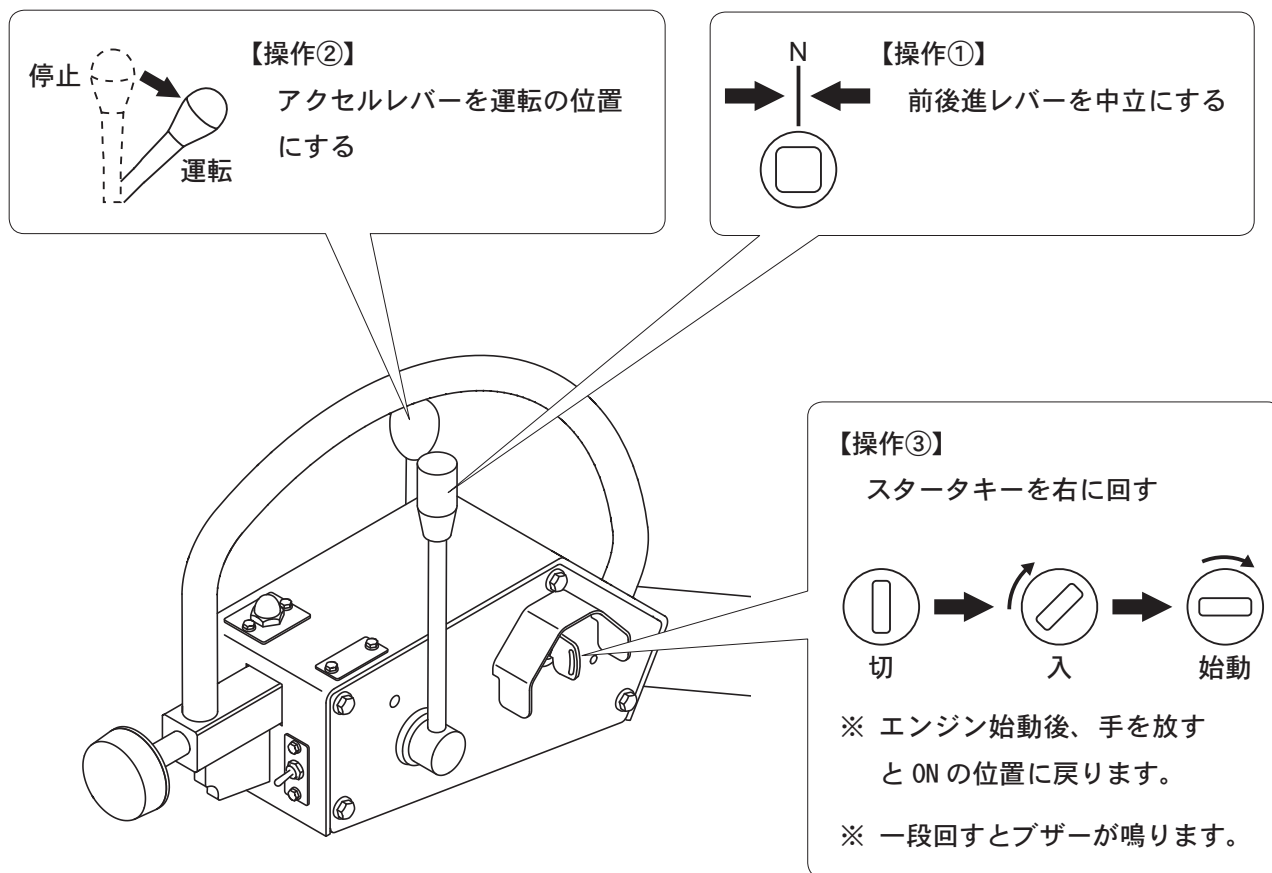
3.2 始動前点検

P27. 定期点検一覧表を参照してください。



3. 運転／操作要領

3.3 始動・走行



⚠ 重要

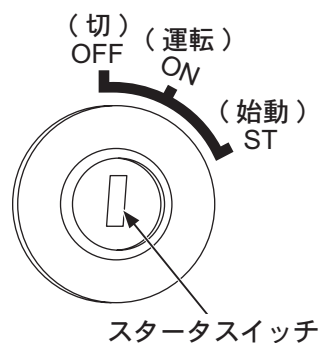
エンジン始動後、負荷をかけずに約 5 分間低回転で暖気運転してください。暖気運転の時間が不足すると作動油の粘性のためエンジン馬力が不足しますので必ず暖機運転を行ってください。

※ クボタエンジンには予熱機能がありますので、寒冷時使用してください。エンジン始動時、スタータキーを ON から始動位置の中間で気温に応じて保持してください。

< -5℃以下で 5 秒間 >

< -5℃～ -20℃で 10 秒間 >

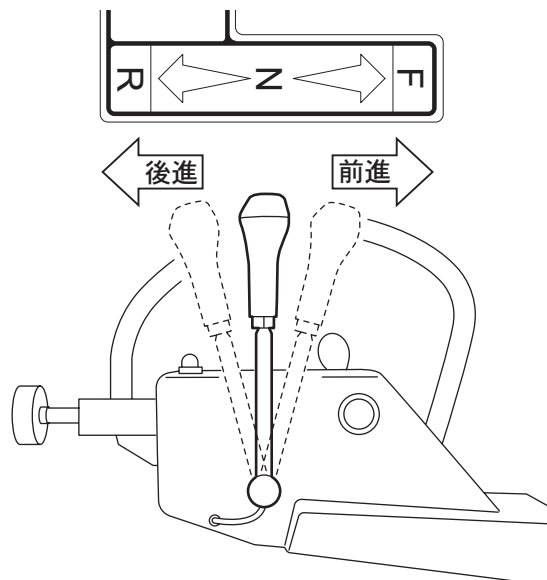
☆ 詳しくはエンジン取扱説明書を参照してください。



3. 運転／操作要領

前後進レバーを F の位置に動かすと前方に動きます。また、R の位置に動かすと後方に動きます。

前後の切換は、一旦中立位置で止めて、機械が停止するのを確認後再度、前進側または後進側に動かす様にしてください。前後進レバーの操作は急激に行わないでください。



警告

前後進レバーを急激に動かすと機械が急発進しますので危険です。

レバーの位置により走行速度が 0 ～ 3.5km/h まで無段で調整できます。

機械を停止させるときはアクセルレバーを停止位置にし、エンジンが完全に停止してからキーを OFF にしてください。

⚠ エンジン始動中はキーを OFF にしないでください。

★ 作業する際はアクセルレバーを運転の位置にしてください。

⚠ エンジン回転が不足すると性能が落ちてしまいます。

■ ハンドガイド式の後進時注意

ハンドガイドローラの後進時には、操作ハンドルの真後で後ずさりする体勢では転んでひかれたり、障害物に挟まれる恐れがあります。進行方向に身体を向け、ハンドルの左右どちらかに寄って操作してください。



3. 運転／操作要領

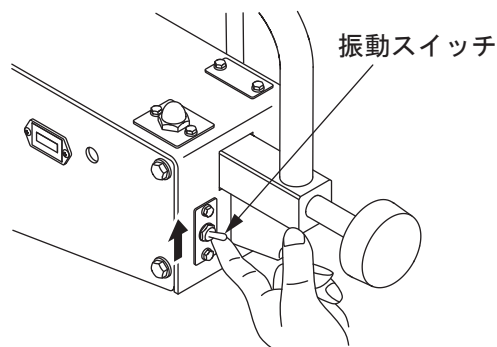
3.4 振動

振動を入れるときは、振動スイッチを上に戻すと電磁クラッチが作動し振動が入ります。

振動スイッチは走行中自由に ON/OFF することができます。

機械を停止する前には振動を切ってください。

⚠ 振動を入れる時は低回転でお願いします。



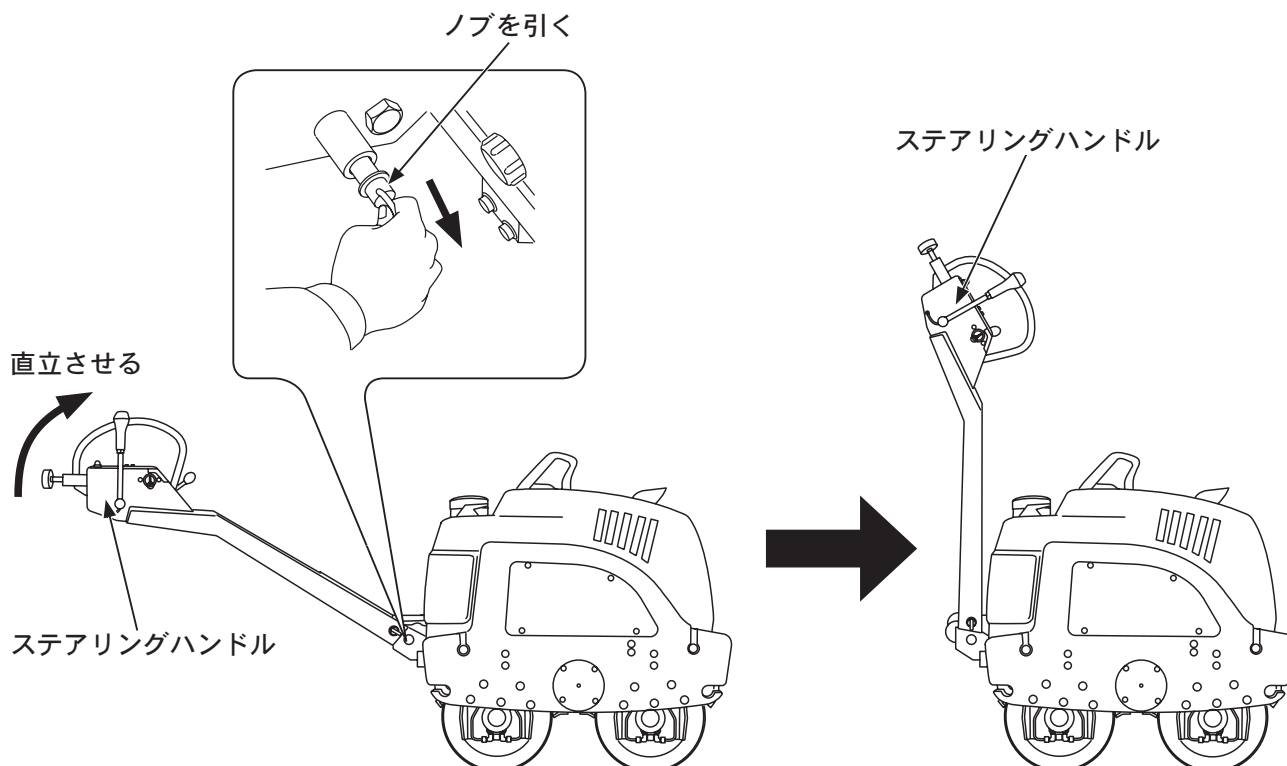
⚠ 重要

固い地面、例えばコンクリートとか締め固められた地面で振動を入れるとローラベアリング等の損傷の原因になりますので振動は入れないでください。

3.5 ステアリング

ステアリングハンドルは搬送時及び格納時スペースを確保するためワンタッチで折りたたむことができます。

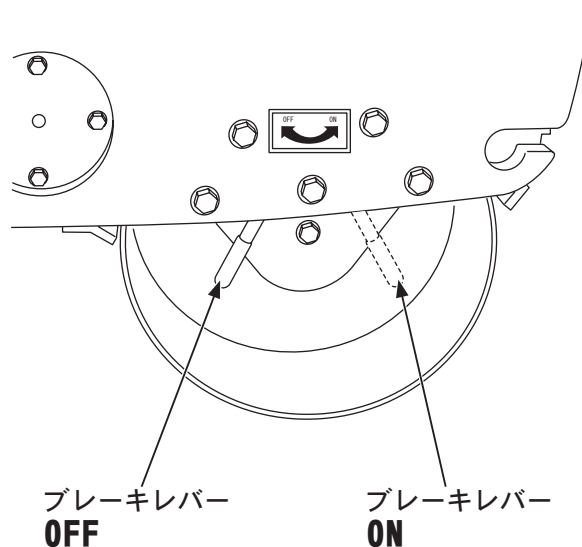
ハンドルを持ち上げてノブを引いてハンドルを直立させるとノブが自動的にロックし固定されます。



3. 運転／操作要領

3.6 パーキングブレーキ

パーキングブレーキは後輪左側に組付けてあります。レバーを右側に動かすとブレーキが作動し、左側に動かすと解除します。坂道で停車する時は絶対使用して下さい。その際、後輪が坂道の下になる様にしてください。

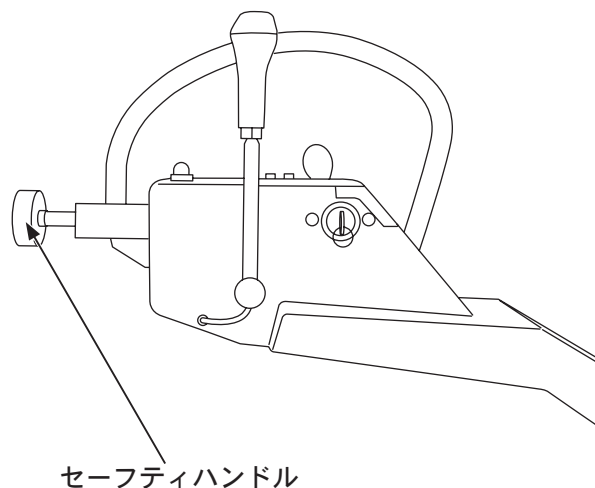


⚠ 危険

坂道に停車する時はパーキングブレーキを作動させないと、機械が暴走し、人や建築物に損害を与える恐れがあります。

3.7 セーフティハンドル

後進時、万が一壁等の障害物と機械の間に体を挟まれた時、機械的に前後進レバーを中立位置にする装置です。作業前にスムーズに動くことを確認してください。



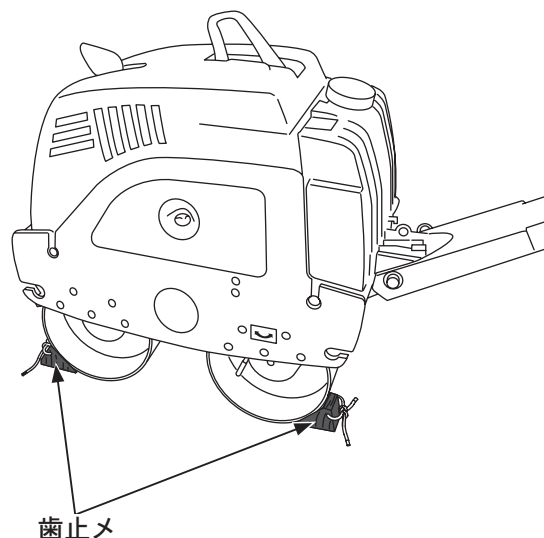
⚠ 危険

ハンドルに物をかけたりしておくと、いざというとき役にたたなくなり重大な損害を与える恐れがあります。

3. 運転／操作要領

3.8 歯止メ

機械を駐停車させる時は、歯止メを使用してください。



⚠ 危険

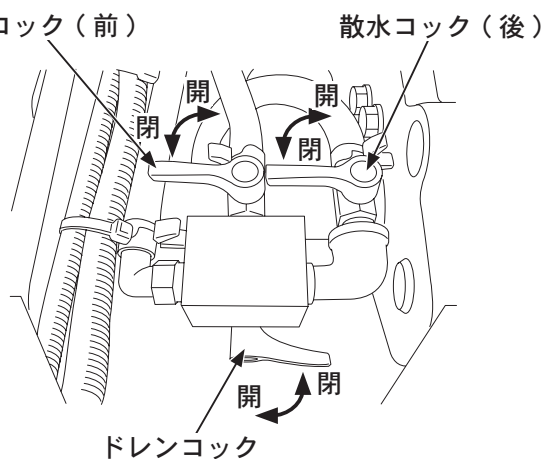
傾斜地に駐停車すると、車両の自重により暴走する危険があります。平坦で堅い場所に駐停車してください。

やむを得ず傾斜地に駐停車するときには、前後の車輪に歯止メをしてください。

3.9 散水

散水用コックを“開”の位置へ回すと 散水コック（前） 散水コック（後）
散水ができます。

⚠ 散水用の水には必ず清水を使用してください。

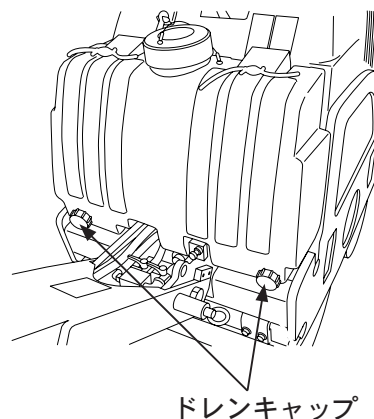


⚠ 重要

寒冷時には、凍結防止のため作業終了後、散水タンクおよびホースの水を完全に抜いてください。

・水抜き

- ① 散水タンクのドレンキャップを外し、水を排出します。
- ② 散水用コック、ドレンコックを“開”の位置に回し、水を排出します。



4. 保守点検

あなたの機械を高性能の状態に維持し、また寿命を延ばすためには、適切な注意深い保守管理をすることが大切です。保守調整に要するに費やす仕事量は、この取扱説明書記載事項を守らないために起こるトラブルに費やす仕事量に比べれば、取るに足らない程少ないものです。オペレータの方、機械の保守を担当される方は、常にこの取扱説明書を身近に置いて活用してください。

4.1 機械の掃除

少なくとも一週間に一度は機械をきれいに掃除して下さい。粘土質、セメント、乳剤舗装のような作業に使用するときは、毎日掃除をしてください。

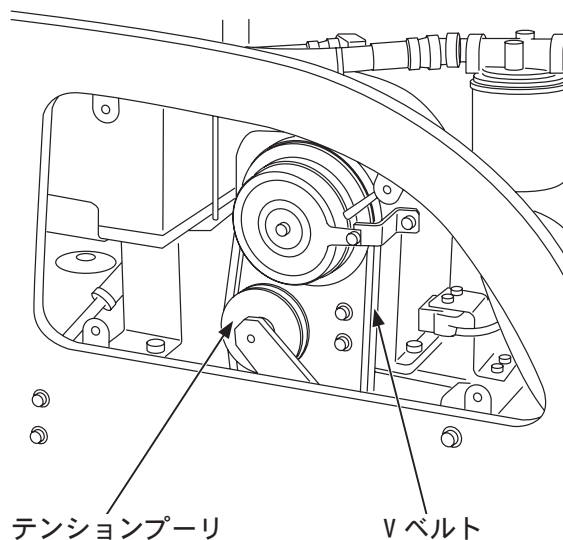
4.2 ボルト／ナットの点検

ボルトは、最初 25 作業時間後に、その後は 50 作業時間毎に点検を行い、緩んでいるボルトは増し締めを行ってください。

4. 保守点検

4.3 Vベルトの点検

振動のVベルトは調整不要です。テンションプーリが自動的に張っています。Vベルトが伸びきったら交換してください。

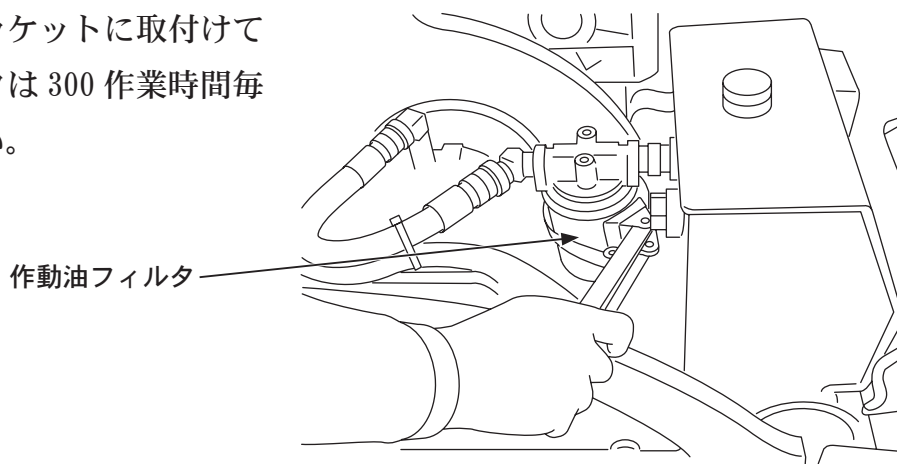


⚠ 注意

Vベルト、テンションプーリ等の点検は、エンジンが停止状態で、始動前に実施してください。エンジンが始動している時に触ると負傷しますので絶対に触らないでください。

4.4 作動油フィルタの交換

作動油タンクのブラケットに取り付けてある作動油フィルタは 300 作業時間毎に交換してください。



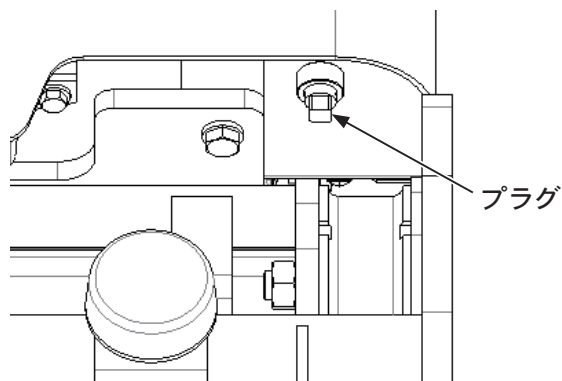
⚠ 危険

作動油が熱い時に作業すると火傷する恐れがありますので、作業前に行ってください。

4. 保守点検

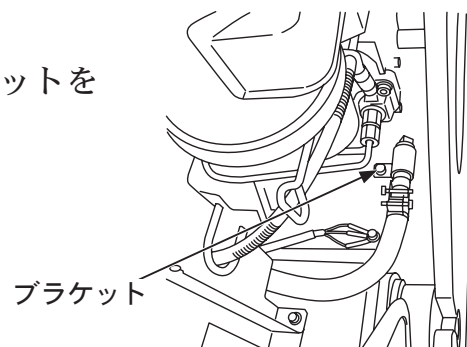
4.5 作動油の交換

① プラグを外す。

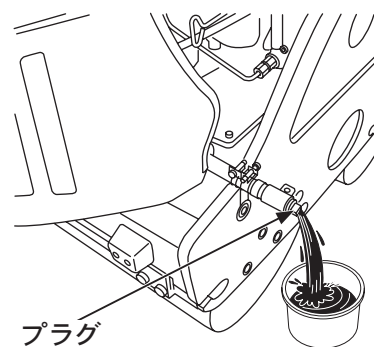


H550KS

① -1 ブラケットを外す。

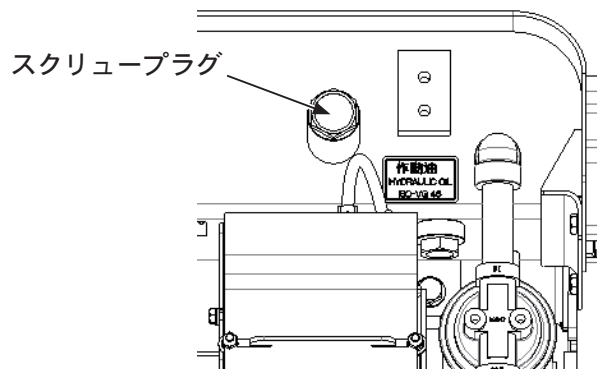


① -2 プラグを外す。

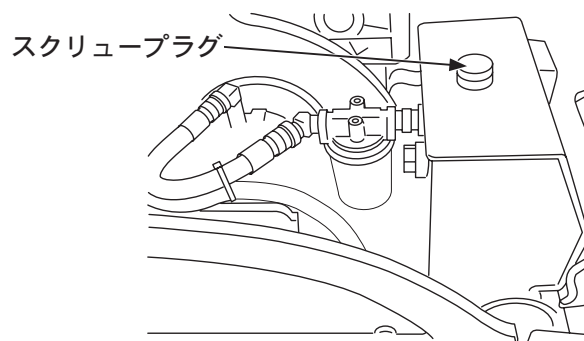


H600/H650

② スクリュープラグを緩める。



H550KS



H600/H650

③ フラッシュオイルでタンク内を洗浄する。

※ 作動油はハイドロリックオイル ISO VG46 を 10L (タンク容量) 使用しております。

※ 作動油は 1000 作業時間毎に交換してください。

⚠ 注意

作動油が熱い時に作業すると火傷する恐れがありますので、作業前に行ってください。



4. 保守点検

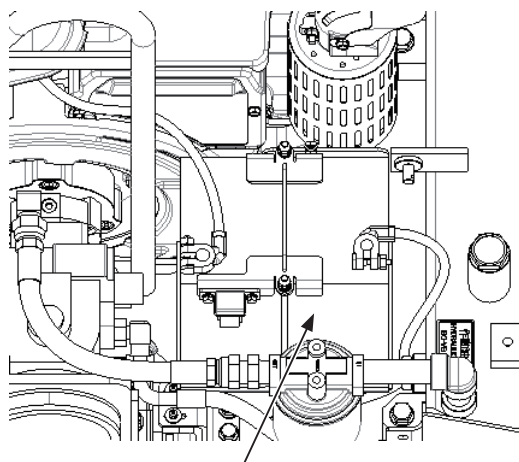
4.6 バッテリーの点検

バッテリーは無補水タイプなので蒸留水の補給はできません。

蒸留する水分をキャッチして飽和状態になっていたら戻す栓を使っています。

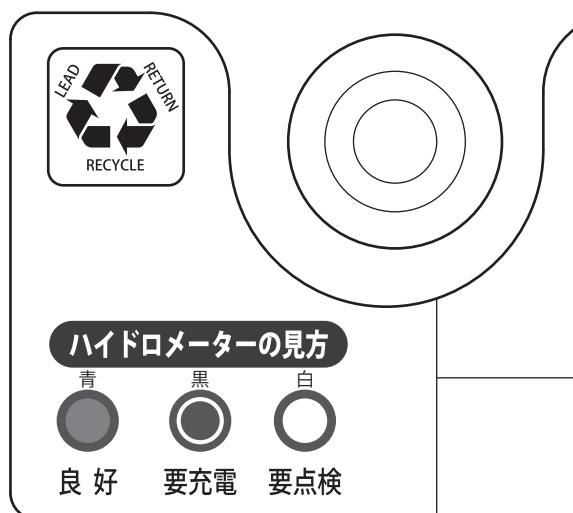
充電しなくなったら交換時期です。

また極端子に白い粉が付いてきたら、きれいに落としワセリンを塗ってください。



初期搭載バッテリー（50B19R）

ハイドロメーターの見方



4. 保守点検

⚠ 注意

バッテリーの取り扱い

※ バッテリー液は希硫酸で非常に有害です。

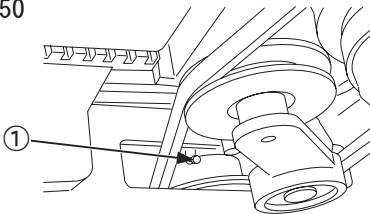
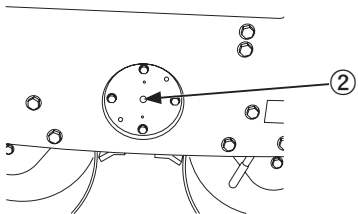
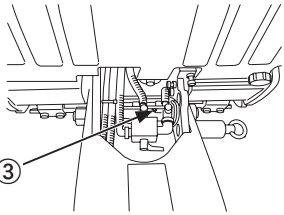
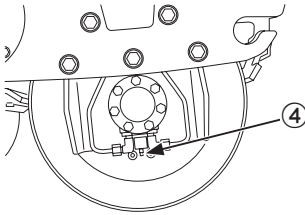
- ・ 身体や服にかからないようにしてください。
- ・ バッテリー液が付着した場合は素早く水洗いし、万一、目や口に入った場合は多量の水で洗い流し、専門医に相談してください。
- ・ 目を保護する器具とゴム手袋を着用して作業してください。

※ バッテリーのガスは爆発する恐れがあります。

- ・ バッテリーの近くでスパークさせたり、マッチを点火したり、裸火を近づけないでください。
- ・ 両極を金属片でショートさせてのバッテリー点検はしないでください。危険です。必ず電圧計または比重計を使ってください。
- ・ バッテリーの上に工具など金属製の物を置かないでください。ショートの危険があります。
- ・ 凍ったバッテリーは充電しないでください。爆発の恐れがあります。凍った場合、16℃以上に温めてください。

4.7 グリース給脂

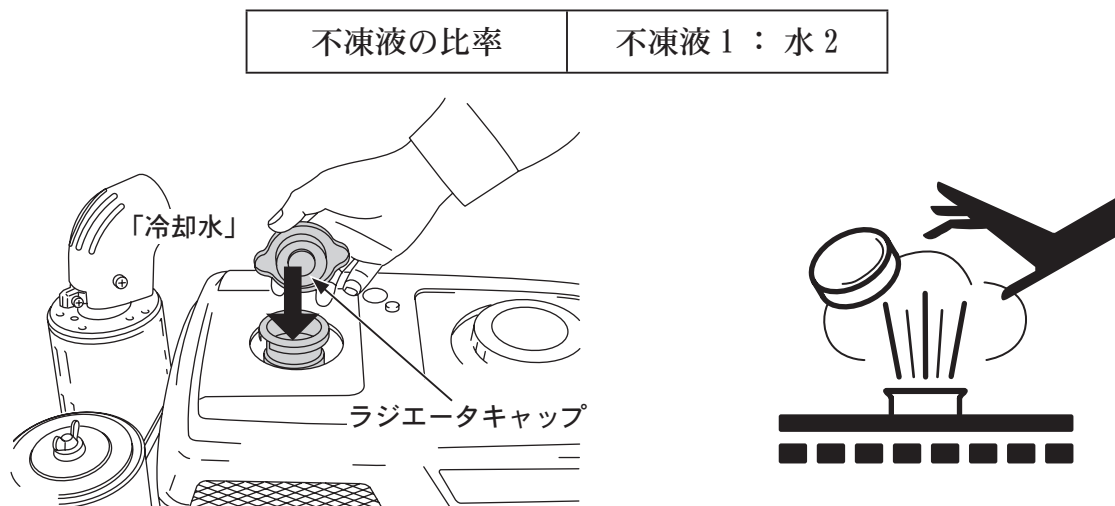
本機にはグリースニップルが4箇所ついていますので定期的に給脂してください。

① 振動軸 L 側・・・1 年毎に H600/H650 	② 振動軸 R 側・・・1 年毎に H600/H650 
③ ステアリング軸側・・・1 年毎に 	④ ローラドラム・・・6 ヶ月毎に  ※ ローラドラムを動かし、グリースニップルを図の位置に移動させる。

4. 保守点検

4.8 ラジエータ冷却水

蒸発によって減った冷却水は、水だけを補給してください。冷却水が漏れた場合は、比率どおり不凍液と水を調合して補給してください。



⚠ 重要

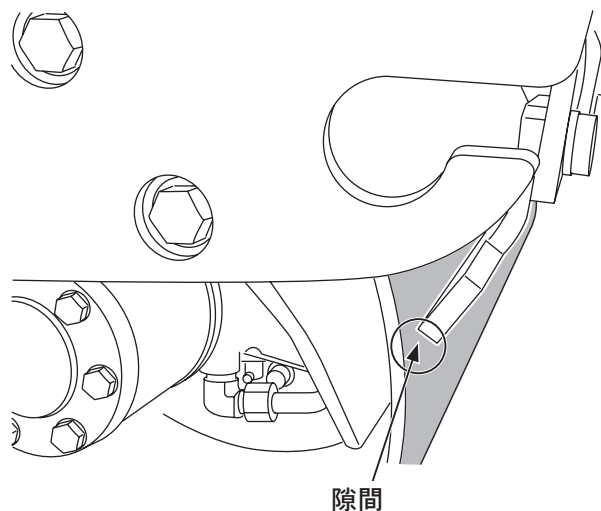
不凍液の混合比率は 50% を超えないこと。混合比率が高すぎると、冷却水の沸点が上昇し、エンジン焼付きやラジエータ破損の原因となります。

⚠ 注意

- ※ 運転中及び停止直後はラジエータ、冷却水、エンジン本体が熱くなっています。手や肌が触れるとやけどの危険があります。
- ・ 運転後はエンジン及びラジエータが十分冷えてから作業してください。

4.9 スクレーパ

スクレーパとローラドラムの間にアスファルトや泥等が挟まっていると正常に使えないため、必ず始業前に点検してください。又、スクレーパとローラドラムの隙間が狭いと異音や破損の原因になります。



4. 保守点検

4.10 電磁クラッチ

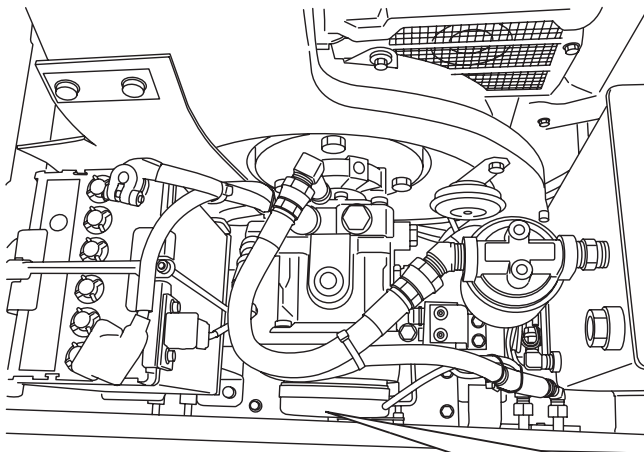
乾式クラッチを使用しているので、摩擦面に水や油が付着しないようにしてください。摩擦面にゴミや油類が付着すると機能しなくなる恐れがあります。

⚠ 注意

※ 運転中及び停止直後はクラッチ本体が熱くなっております。

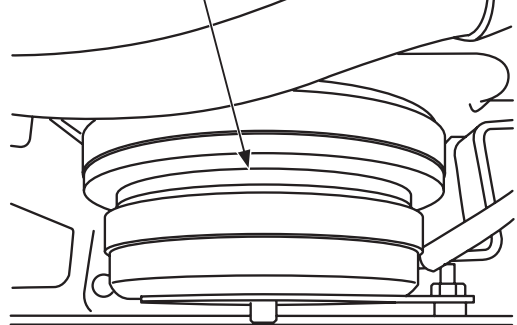
手や肌が触れるとやけどや損傷の危険があります。

- ・ 点検作業するときは十分冷えてから行ってください。



⚠ 洗車時は注意してください。

摩擦面へのゴミや油類の付着に注意



4. 保守点検

4.11 定期点検一覧表

定期点検一覧表

項目		始業点検	定期点検時間			
			50 時間毎	100 時間毎	300 時間毎	1000 時間毎
エンジン	エンジンオイル	△○	※	◎		
	エンジンオイルフィルター			◎		
	冷却水	△○				
	燃料タンク	○				
	ファンベルトの張り	△				
	燃料フィルタエレメント			◎		
	エアクリーナエレメント			△◎		
油圧系	作動油					◎
	作動油フィルタ				◎	
振動系	振動軸				○	
	V- ベルト			△		
本体	ローラドラム				○	
	スクレーパ	△				
	ステアリングハンドル				○	
	前後進レバー				○	
	散水パイプ	△		◎		
電気系	バッテリー	△			○	
	ニュートラルスイッチ	△				
その他	ボルト・ナット類		△			

△：点検 / 調整 ○：補給 / 給脂 ◎：清掃 / 交換

※印部のエンジンオイルは、初回のみ、ならし運転 50 時間後に必ず行ってください。

備考：この定期点検一覧表は標準を指示しています。作業環境の悪い場合には交換時間を短縮してください。

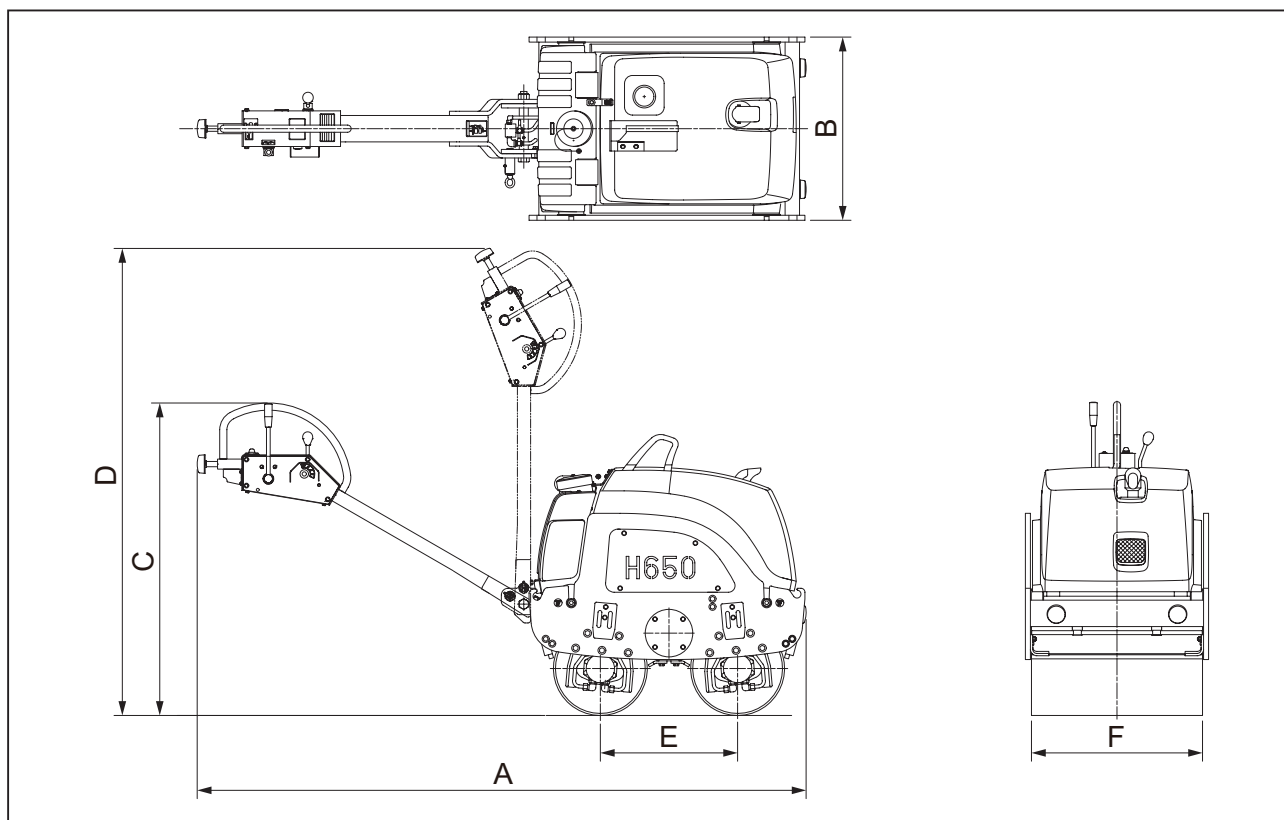
注意

グリースが皮膚に付くと炎症を起こす恐れがありますので気をつけてください。
グリースが皮膚に付いたら石鹸で洗い落としてください。

5. 仕様

5.1 外観寸法 / 諸元表

外 観



諸元表

型 式			H550KS	H600K	H600KS	H650K	H650KS
機械質量		Kg	548	605	605	635	635
寸 法	全長 . A	mm	(2, 297)	(2, 308)	(2, 308)	(2, 308)	(2, 308)
	全幅 . B	mm	620	634	634	694	694
	全高 . C	mm	(1, 185)	(1, 182)	(1, 182)	(1, 182)	(1, 182)
	全高 (格納時) . D	mm	(1, 772)	(1, 769)	(1, 769)	(1, 769)	(1, 769)
	軸距 . E	mm	520	520	520	520	520
	締固め幅 . F	mm	580	588	588	648	648
	ドラム径	mm	352	352	352	352	352
性 能	起振力	KN (Kgf)	9. 8 (1, 000)	9. 8 (1, 000)	9. 8 (1, 000)	10. 8 (1, 100)	10. 8 (1, 100)
	振動数	Hz (rpm)	60 (3, 600)	55 (3, 300)	55 (3, 300)	55 (3, 300)	55 (3, 300)
	走行速度	Km/h	0 ~ 3. 0	0 ~ 3. 5	0 ~ 3. 0	0 ~ 3. 5	0 ~ 3. 0
	登坂能力	% (度)	40 (22)	40 (22)	40 (22)	40 (22)	40 (22)
エ ン ジ ン	型式		E75-E3-NB3	E75-E3-NB3	E75-E3-NB3	E75-E3-NB3	E75-E3-NB3
	定格出力	KW (PS)	3. 7 (5. 0)	4. 0 (5. 5)	3. 7 (5. 0)	4. 0 (5. 5)	3. 7 (5. 0)
	冷却水容量	ℓ	1. 2	1. 2	1. 2	1. 2	1. 2
	燃料タンク容量	ℓ	4. 8	4. 8	4. 8	4. 8	4. 8
	エンジンオイル容量	ℓ	1. 3	1. 3	1. 3	1. 3	1. 3
水タンク容量		ℓ	32	35	35	35	35

関東鉄工 株式会社
KANTO TEKKO CO., LTD

〒306-0127 茨城県古河市下片田 852-4
TEL: 0280-77-0081 FAX: 0280-77-0080
<https://www.kanto-tk.co.jp>